

三河と知多満喫 89の体験

来月からオンパク 3市が新たに参加

三河地方や知多半島でさまざまな体験プログラムを楽しめる観光イベント「みかわdeオンパク」が、十月一日から始まる。今年は安城、碧南、半田市が新たに加わり、計十五市町村で八十九種類の催しをラインアップ。既に申し込みを受け付けている。みかわdeオンパクは十二月二十四日まで。

(木下大資)



報道や観光関係者向けのプレ体験会で、イカやクロムツの干物作りに挑戦する参加者。蒲郡市の「味のヤマスイ」で。

オンパクは大分県別府市が発祥の「温泉泊覧会」の略称。三河では蒲郡市が二〇一一年に始め、近年は温泉地に限らない地域の魅力を体験してもらうイベントとして、開催エリアを拡大してきた。

蒲郡市の形原漁港近くの「味のヤマスイ」は、昨年好評だった「お魚講座」を今回も開く。竹島水族館の小林龍二館長のトークを聞きながら、地元で水揚げされた魚介類をさばいて干物作りに挑戦する。生き物を飼育する水族館では、魚を調理して食べるイベントは普通考えにくい。魚に興味を持ってもらうために企画した(小林館長)というユニークな試み。十月七、二十一日と十一月四、十一日の計四回(参加費千五百円)。

他に、旅館の女将おかみに教わ

るハーバリウム(植物をオイルに浸して飾る)体験、蒲郡の繊維産業にちなんだ絞り染め体験、佐久島や日間賀島を舞台にした謎解きなどがある。詳しくは専用サイトや、各地の観光施設に置いてある冊子で。(蒲郡市観光協会)0533(68)2526

「みかわdeオンパク」来

15市町村で
計93種類

蒲郡では干物作り体験も

行楽の季節を蒲郡市など三河地方で体験プログラムを展開する「みかわdeオンパク」(実行委員会主催)は今年も10月1日から12月24日まで行われる。東、西の三河だけでなく安城、半田、碧南などを加えた15市町村で計93種類のプログラムを繰り広げる。
(安藤聡)

着地型観光イベントでその町の魅力を知ってもらうと毎年開催。今年で8回目。蒲郡市内で2011年に始まり、東三河、西三河とエリアを拡

大。今回35種類の新プログラムが登場する。蒲郡市内では形原町の海鮮土産店「味のヤマスイ」では「お魚のことを知って、さばいて、食べ

ちやお」を10月7、21日、11月4、11日の4日間開催する。竹島水族館の小林龍二館長と同店の山本大輔専務が指導。スルメイカやシロムツをさ

ばいて干物作りを体験。小林館長が「スルメイカは眼が大きい」「うろこは身を守るためについている」などわかりやすく説明するほか、山本専務が包丁の入れ方を教えてくれる。

さばいたものは持ち帰ることができ、小林館長は「魚離れしている家庭に、少しでも多く魚好きが増えてもらえれば」と話す。ほかには植物標本の意味もある「ハーバリウム」体験と宿泊施設のスイーツやランチを合わせたプログラム、温泉女将(おかみ)と行く蒲郡産イチジク収穫体験などもある。

新登場では半田市は「知多牛バーベキューとサツマイモ収穫体験」、「國盛 酒造り体験」、碧南市ではあおいパークで「旬の野菜のもぎとり体験」、安城市ではデンパークで「季節のリース作り体験」がある。

小池高弘委員長は「プログラムのエリアを年々拡大させ、将来はインバウンド対応として愛知県全体に広がってほしい」と話している。

問い合わせは蒲郡市観光協会(05333・68・25226)へ。



スルメイカのさばき方を教わって干物づくりができる体験プログラム。蒲郡市形原町の味のヤマスイで

蒲郡方面



タコのゆで方を学ぶ体験プログラム(蒲郡市拾石町で)

秋の蒲郡は陸や海で多彩に楽しめる体験イベント「みかわdeオンパク」に参加すれば、楽しみ倍増だ。

「みかわdeオンパク」は10月1日から12月24日まで開催。市内では海産物を調理したり食べたりできるものやクラフトなど56種類の体験プログラムが行われる。

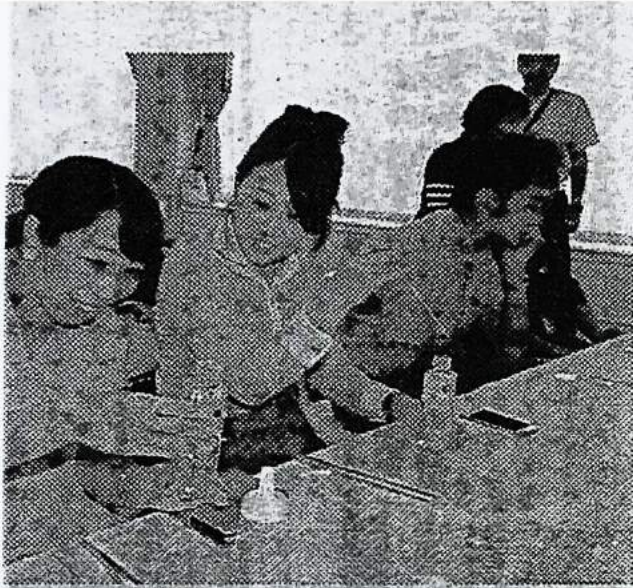
拾石町の蒲郡海鮮市場では「柔らかタコのゆで方体験とメヒカリの唐揚げ御賞味」を火、土曜日に開催。マダコを塩ゆでするまでの下ごしらえを行い、ゆであがった自分のタコをその場で味わうことができる。

三谷温泉の松風園では植物標本の「ハーバリウムレッスン」と調理長特製スイーツを堪能できるイベントを10月15日、11月19日、12月17日に開催する。

このほか宿泊施設女将(おかみ)のグループ「こはぜの会」のミカン収穫体験(11月14日)、加盟11施設では無料でミカンのくず湯をプレゼントする。

10月20、21の両日は三谷祭。4台の山車が海を渡る「海中渡御」は21日に行われる。

三河中心に多彩な観光プログラムを実施



関係者向けに体験会を開いた

伝統文化やグルメなどの多彩な観光プログラムを行う「みかわdeオンプク」が、10月1日にスタートする。東三河を中心に93のプログラムが実施される。各地の魅力を発信し、観光業の活性化につなげる狙い。実行委員会(委員長小池高弘蒲郡商工会議所会頭)が主催し、蒲郡市観光施設や農業事業者などが、趣向を凝らした体験プログラムを実施する。温泉旅館の松風園(蒲郡市)は、オイルに植物を入れてインテリアをつくる体験会を開く。

「みかわdeオンプク」

10月1日にスタート

農業体験施設のおおいパーク(碧南市)は、さといもや落花生などの収穫体験を行う。

みかわdeオンプクは今年で8年目。着実にプログラムの輪を広げ、昨年の参加者は約1万4千人と、過去最高を記録した。

小池委員長は10日、蒲郡市でプログラム開始に先立ち会見し、「愛知県内各町を巡り、また、目まぐるしく

10月1日からオンパク

安城市、半田市が初参加

新規35含む93プログラム提供



干物づくりにチャレンジ



センスが光るハーバリウムづくり

さまざまなグループや施設・団体が企画した体験や遊びを提供、地域の魅力を発信するイベント「みかわdeオンパク」が、今年も十月一日からスタートする。プログラム数(開催市町別)は九十三。開催エリアは年々広域化、今年も安城市、半田市が加わった。蒲郡市を中心に、東三河各市町村、岡崎市、西尾市、碧南市、南知多町、常滑市で実施する。開催期間は十二月二十四日まで。十日、蒲郡商工会議所で発表会があり、その後、体験会があった。

今回の新規プログラムは三十五。初参加の安城市は▽十二月二日に開かれる安城元氣フェスタ▽デンパークで行う季節のリース作り体験。半田市では▽知多牛BBQとサツマイモ収穫体験▽二日間、國盛で仕込みから瓶詰までの酒造り体験会。蒲郡では女将さんらでつくる「こはぜの会」が▽いちじく収穫体験▽みかん祭り。おもてなしコンシェルジュを取得した「蒲郡山友会」は▽蒲郡の山を登ろう(御堂山、砥神山)。

体験会では形原漁港内で魚介類を販売している味のヤマスイで「お魚講座」お魚のことを知って、さばいて、食べちゃおう」に参加した。まちじゅう食べる水族館プロジェクトの一つ。竹島水族館の小林龍二館長から魚の話聞いたあと、スルメイカとシロムツの干物づくりにチャレンジ。包丁の使い方を教わり内臓を取り、形を整えた。この日は雨で干せなかったが、部屋干しでも翌日には、自分でつくった美味しい干物が

食べられる。小林館長は「包丁でさばいた体験を、魚に興味を持つきっかけにしてほしい」と話していた。この後、三谷温泉・松風園で「ハーバリウムづくり」と調理長特製スイーツを愉しむ」プログラムを体験した。本来は植物標本。現在

流行しているのは観賞用。細長いビンにドライフラワーなどを配置、シリコンオイルやミネラルオイルで満たす。中に配置する花の選び方で、さまざまな風情を醸し出す。ホテル竹島でもハーバリウム体験とフレンドランチを組み合わせたプログラムを提供する。このほか生命の海科学館では、しぼり染めで模様をデザインした絞り染めを体験した。参加希望者は冊子に掲載されている申込先にインターネットか電話で予約する。事務局は蒲郡市観光協会 ☎68・52526。